

(2) 市町の公民館等（敬称略）

事例5 父親を対象とした講座

市町・公民館等	宇都宮市 豊郷生涯学習センター
事業	イクメン応援講座

1 事業を始めたきっかけ

2014年に保健福祉部局から声がかかり、父親の育児参加を促す目的で取組がはじまった。2014年は、保健福祉部局の予算で行ったが、2015年からは、生涯学習課の予算で事業を行っている。現在は、計画から実施までを生涯学習センターの担当者が主体となって行っているが、講座の内容によっては、保健福祉部局に講師を依頼したり、講師を紹介してもらったりするなどの連携をしている。

2 活動内容

家族で参加してもらい、父親と子どもには、リトミックやエアロビクスなど体を動かしながら遊ぶ活動内容を行っている。母親には、講話やストレッチ体操等のリフレッシュできるような活動と、市の保健師による乳がんに関する内容や、歯磨きの仕方（親や乳幼児）などの内容を行っている。子どもは父親に任せて、母親は講座に集中できるように工夫をしている。

また、市の保健師や相談員が待機していて、父親・母親のどちらからでも随時、悩み等の相談を受けられるようにしている。相談員は、登録者や元幼稚園教諭などが担当してくれていて、活動の場と一緒にいるので、活動をしながら相談することも可能である。

〈工夫している点〉

父親が安心して子どもと活動に関われるように、場の雰囲気作りに力を入れている。

- ・子どもが寝たい時に横になれるようなマットを床に敷いたり、畳の部屋を確保したりする。
- ・衛生面の準備（掃除や消毒、救急箱やウエットティッシュの準備）をする。
- ・予定していた講座が早く終わってしまった場合に備え、消耗品費などの予算はないがお金をかけないで作れるおもちゃを準備し、母親の講座が終わるまで間を持たせる工夫をしている。



父親の講座 エアロビクスをしている様子

3 成果と課題

○成果

好評で、すぐに定員に達してしまう。今年で4年目になり、上の子どもの時に参加した経験者が、下の子どもの時にもリピーターとして参加している人もいる。この事業に参加することで、父親同士のネットワークができていく様子がみられる。母親対象の講座と比べ、広域から参加者が集まっている。

父親は、積極的に講座に参加してくれている。年々、子どもとの関わりが上手な父親が増えていて、講師からも好評であり、主催側も事業を進めやすい。

○課題

この事業は、自主事業ではあるが、貸し館での利用が多い所なので、部屋の確保が難しい。また、子どもの生活リズムに合わせて、休む場所などを確保しておくことが参加者のリラックスにつながり大切になってくるため、事業日は、他の団体への貸し出しを行わないようにしている。子どもの体調不良等で当日欠席もあり、材料費がかかるような講座の実施は難しい。できるだけ参加費無料の内容にしている。

4 その他

○今後の活動

センター周辺からの参加者を増やすためにも、来年は、地区の行事が盛んな時期（9、10月）を避けて、イベントが重ならないように行いたい。また、近くで連携できる機関等を探している。別の事業では、帝京大学が地域貢献に積極的なため、優先的に講座の講師を担当してもらえ助かっている。同様のつながりが、地域内の他の機関等とできるといいと考えている。

（調査協力：宇都宮市豊郷生涯学習センター 主任 佐藤有美子）



父親の講座

（上）リトミックをしている様子

（右上）講座修了後、母親の講座が終わるのを待つ間の様子

母親の講座

（右）ストレッチ体操の様子

